

第 12 回（令和 3 年度 第 1 回）経営評価委員会（書面開催）議事録

委員：高杉委員長・鹿島委員・露口委員・木村委員・吉岡委員（5 名）

会議開催について：

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、各委員と相談のうえ会議形式ではなく書面開催で開催することを決定した。

【内容】

<議題>

① 令和 2 年度 運営状況について

事務局から「資料 1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和 2 年度運営状況（4 月～3 月）」に沿って、令和 2 年度の運営状況の報告を行った。

- ・ 1 日あたりの患者数は入院が 295 人、外来患者数が 936 人となり、それぞれ前年度比で 14 人、34 人の減少となった。
- ・ 診療単価は、入院は前年度から 17.4%増。外来については、前年度と比べて 11.4%増となった。
- ・ 救急患者数は 10,208 人となり、前年度比で 4,666 人の減少となった。救急患者のうちの搬送者は 2,805 人、搬送者の入院率は 35.6%となった。
- ・ 和泉市消防本部からの救急搬送件数は 1,780 人となり、前年度比で 523 人（22.7%）減、市外搬送は 2,438 人へと 566 人（18.8%）の減少となった。
- ・ 平均在院日数は全診療科で 11.8 日となり、前年度比で 0.4 日増加した。
- ・ 患者紹介率は紹介患者受入増に伴い 72.3%となり、前年度比で 1.0 ポイント増加し、逆紹介率も 9.0 ポイント増加の 72.8%となった。
- ・ 人間ドックの件数は 1,349 人となり、前年度比で 10.4%の減となった。
- ・ 患者サービス向上に係る取り組みとしては、新型コロナウイルス感染症臨時特別医療講演会や新型コロナウイルスに関するシンポジウム、災害時医療訓練などを行った。また、提案ポスト（投書件数）について、お礼が 20 件、苦情・要望等が 189 件、総件数 209 件があった。
- ・ 医業収益は、9.9%増の 128 億 3,449 万 4 千円、経常損益は 22 億 1,704 万円の黒字となった。

上記報告に関して委員から以下の質疑等があった。

（委員）

他の病院では、コロナ禍の中で、入院・外来収益が減少しているが、当医療センターは医業収益が増加しており、よくがんばっていると思う。

(委員)

小児科の患者が減っているのはなぜか。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響により、受診控えや救急患者受入数、救急搬送者数が減少しているためである。

(委員)

利益が約 23 億円となっているが、和泉市の繰入金の返還はあるのか。

(事務局)

協定上、繰入金を返還する規定になっていない。利益は医療機器の更新や施設の修繕等に活用し、患者サービスにつなげていく。

(委員)

診療科別の手術数が減少しているのは、コロナ禍の全診療機関にみられる特徴か。また、人間ドック等も同様か。

(事務局)

緊急事態宣言により 4 月、5 月は手術数が減少した。また、人間ドックも 1 か月以上受付停止をしていたことから、件数が減少した。

(委員)

消化器外科、呼吸器外科は平成 30 年 4 月と比較して倍になっているが、外来医師数が増えたのか。

(事務局)

全体的に医師確保に努めており、その結果として、消化器外科医と呼吸器外科医が増加したためである。

(委員)

アクシデント件数が他病院に比べて、件数が少し多い。どのように考えているか。

(事務局)

令和元年度と比較した場合、5 件増えている。転倒はなかなか防ぐことが難しいが、転倒してもケガのないよう検討、対応していきたい。

(委員)

形成外科医が 1 人しかいないが、手術件数が多い。どのような体制なのか。

(事務局)

眼瞼下垂・皮下腫瘍摘出術などの局部麻酔の外来手術が多く、執刀医 1 名、看護師 1 名のサポート体制で行っている。

(委員)

検査材料費が 34.4%増、医療消耗品費が 14.9%増となっているが、コロナの影響とみてよいか。それ以外の理由があるか。

(事務局)

患者の診療による検査材料費や消耗品費の増加によるものである。

(委員)

臨時費用 41,170 千円はなにか。

(事務局)

人工呼吸器等の備品を補助金で購入したことから、固定資産圧縮損を計上したものである。

② 令和 2 年度 進行管理 (PDCA) チェックシート兼経営評価シートについて

事務局から「資料 2 令和 2 年度 進行管理 (PDCA) チェックシート兼経営評価シート (4 月～3 月)」に沿って指定管理者の自己評価、市の評価を報告した。